

# 経済、行ったり来たり

1970年代以降は、経済が不況、好景気、再び不況へと変動をくり返した。このあいだに、63年間続いた昭和は平成へと移った。経済の動きが、人の暮らしだけではなく、考えかたや文化、子どもの世界にまで影響を与えるようになったのだ。

## <変わりゆく町なみ>

世界経済の中心だったアメリカの経済が悪くなり、世界中が不況になった。日本も少なからず影響を受けたが、道路などの建設事業や輸出を増やし、経済大国といわれるほどに成長していった。しかし、そんな状況は長くは続かなかった。

### 石油ショック

長引くベトナム戦争の影響でアメリカ経済が大きく悪化した。そこへ1973(昭和48)年、イラン、イラクなど中東の石油産出国が石油価格を引き上げ、世界中が大混乱となった。石油からつくられている製品はたくさんあるため、石油と共に物価が上がった。これを「石油(オイル)ショック」という。

いかに石油にたよって  
いるかってことだね。



### バブル時代にとつ入!

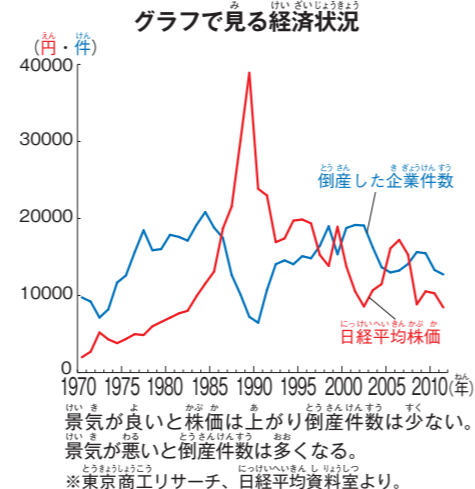
赤字経済が続くアメリカに対し、日本は輸出が好調で景気がよくなっていった。1980年代半ばから都心の土地の値段や企業の株価が上がりはじめた。このような経済状況は、ふくらんだあわにたとえられ、「バブル経済」といわれた。急激にものやお金があふれ、空前の消費社会となっていった。



画像は  
非公開です。

人が多く集まり、にぎわう銀座

ファミリーコンピューター(ファミコン:ゲーム機)が出はじめたものころ。みんな競って買うようになり、子どもたちの生活にも消費の波がおしよせた。



景気が良いと株価は上がり倒産件数は少ない。景気が悪いと倒産件数は多くなる。  
※東京商工リサーチ、日経平均資料室より。



日本も、スーパーにトイレペーパーなどを買い、電気、ガス、水道代も上がり、電力制限があり、夜はビルのネオンが消えた。

バブル時代を  
よく知る鈴木さん

ブランドブームが  
すごかったね。みんな、  
たか高いものを買っていたよ。



### まだ続いている沖縄の問題

沖縄は、第二次世界大戦で日本をただ1つの決戦場となった地だ。アメリカ軍に占領され、1972(昭和47)年5月15日にようやく日本にもどされた。しかし、アメリカ軍の基地はそのまま残されており、アメリカ軍兵による犯罪、軍用機の騒音、墜落事故が現在も後を絶たない。



1972(昭和47)年3月15日、沖縄返還協定にかんする書類の交換式。

### バブルがはじけると……



(左) 企業や店が撤退したため、ビルの空室が増え、募集の広告が目立つようになった。  
(下) 乗る人が少なくなり長い列をつくるタクシー。



### 会社倒産があいつぐ



会社が  
つぶれちゃうの、  
がっかりだよ。



バブルがはじけた影響で経営困難になった多くの企業がつぶれた。1990(平成2)年に6468件だった会社倒産数も、翌年には1万723件、翌々年には1万4069件と増えていた。大きな会社も次々と経営があやうくなった。1997(平成9)年には、当時大手だった山一証券もバブル崩壊後の大きな損失を受け倒産した。

### 中央区ニュース! 50年の歩み



1997(平成9)年、中央区が誕生して50年になった。50周年を記念して、さまざまなイベントが行われた。この年の10月には、月島運動場などで記念区民大運動会が開かれた。

バブル時代は、実態のない数字だけの経済状況だったので、あわのように大きくふくらんだあと、あっという間にはじけてしまった。1991(平成3)年以降、急速に不況がはじまった。土地や株の値段は落ち、ものが売れなくなり、ビルには空きが目立つようになった。

お金が返せなくなって  
立ち退きとなった家は  
競売にかけられ、中央区が  
支給した電話だけがポツン  
と残っていました。



当時のようすを  
語る土屋さん



ビックリ  
しました……。

### ●変わり続ける町一銀座

銀座といえば、明治時代からブランド店や一流品をあつかう店が集まる繁華街だ。時代の変化と共にブランド店だけでなく、話題の店、人気店が次々と出店し、その競争も激しい。

銀座には、さまざまなお店がたくさん集まっている。



### いろいろあった。世界も、日本も。

戦争の時代が終わり、平和な世界になったかという実はそうではない。各国の文明や思想のちがいは、悲しい争いが続いている。また、自然災害も世界中で起き、たくさんのぎせい者が出ている。



2001(平成13)年9月11日、アメリカで起きた同時多発テロ。多くのぎせい者が出た。



2011(平成23)年3月11日、日本で東日本大震災が起きた。

悲しみを  
乗り越えて、  
共に生きて  
いこう!

